

岩手県の 土地改良

2021(5月) No.586

■発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号

TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

■編集発行人／千葉 匡 ■印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>



CONTENTS

- 岩手県土地改良事業団体連合会第63回
通常総会を開催…………… 2
- 令和2年度土地改良功労者表彰…………… 3
- ため池の安全対策について…………… 4
- 農林水産大臣表彰を上小田代ぶどう沢地区(奥州市)
が受賞…………… 6
- 第62回全国土地改良功労者表彰及び
全国土地改良事業功績者表彰…………… 6
- 令和3年度水土里ネットいわて新規採用職員…………… 7
- 令和2年度水土里ネットいわて資格取得者…………… 7
- 令和3年度水土里ネットいわて事務局体制図…………… 8

「初夏の秀峰」

令和2年度「農村景観」写真コンクール 風景部門 優秀賞



岩手県土地改良事業団体連合会第63回通常総会を開催

－ 新監事に久保田泰輝氏(豊沢川(改))、千葉啓志氏(藤沢(改))を選任 －

本会は3月24日、岩手県民会館中ホールにおいて第63回通常総会を開催した。

本会の総会は、例年本会会議室で開催していたが、三密を避けるため広い会場での開催とした。

開会にあたり小田島峰雄会長は、「新規地区を計画的に採択していただくためには、当初予算の確保が必要不可欠であり、役職員一丸となって、財務省や農林水産省をはじめとした省庁、そして県への要請活動を展開し、当初予算がしっかりと確保され、新規地区が計画的に採択されるよう取組を進めていく」と挨拶した。

議事に先立ち、永年にわたり農業農村整備の推進や土地改良区の運営に貢献された方々に対し、令和2年度土地改良功労者表彰（岩手土地連会長表彰）の授与式が行われ、11名（役員2名、職員9名）の方々が受賞された。

議事は、議長に選出された都南土地改良区の佐々木章一理事長によって進められ、令和3年度事業計画及び予算など12議案が議決された。

その中で欠員となっていた監事に久保田泰輝

氏（豊沢川土地改良区理事長）と千葉啓志氏（藤沢土地改良区理事長）が選任された。

最後に、計画的に農業農村整備を進めるための必要な予算の確保と、土地改良区の運営基盤の強化に対する支援などを求める決議を採択し閉会した。



【挨拶を述べる小田島会長】

決 議

- － 国、県においては、計画的に農業農村の整備が進むよう、令和四年度当初予算において、現場のニーズに十分応えられる規模の農業農村整備事業関係予算を確保すること。
- － 農業の成長産業化に向けた生産基盤の強化や農村地域における防災・減災対策を着実に進めていくため、新規地区が計画的に採択にされるよう、引き続き、調査計画を推進すること。
- － 担い手への農地集積や生産コストの低減、高品質・高収益作物生産の前提となる水田の大区画化・汎用化を一層推進するとともに、本県の農地の約八割を占める中山間地域等の持続的な発展に向けて、地域特性を踏まえたほ場整備の推進が図られるよう十分配慮すること。
- － 農村地域の国土強靱化に向けて、老朽化した農業水利施設等の長寿命化及び豪雨・耐震化対策等をより一層推進するとともに、既存ダムの洪水調節機能の強化や田んぼダム等の流域治水の取組に対して必要な支援を講じること。
- － 「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」及び「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」に基づき技術的・財政的支援を講じること。
- － 多面的機能支払制度の推進に当たって、推進協議会や土地改良区がこれまで培った技術、知見など持てる能力を十分に発揮し、制度の効率的・効果的な推進に貢献できるよう必要な予算を確保すること。
- － 土地改良区の運営体制の強化を図るため施行された改正土地改良法への円滑な対応に向けて、義務化された貸借対照表の作成・公表に必要な新たな会計制度の定着などに対する支援を強化すること。

令和3年3月24日 岩手県土地改良事業団体連合会 第63回通常総会
「農業・農村のセーフティネットを目指して」

— 令和2年度土地改良功労者表彰 —

●役員の部

氏 名	所 属	役 職 名
千 葉 秋 雄	照 井 土 地 改 良 区	理事
外 館 孝	久 慈 市 土 地 改 良 区	理事長

●職員等の部

氏 名	所 属	役 職 名
千 葉 智 明	一 関 市	農林部副参事兼建設農林センター次長兼農林整備課長
藤 原 直 洋	豊 沢 川 土 地 改 良 区	賦課徴収課賦課徴収係主査
澤 田 聖 子	岩 手 中 部 土 地 改 良 区	賦課徴収課賦課徴収係主査
高 橋 邦 夫	江 刺 猿 ヶ 石 土 地 改 良 区	工務課工務係長
菊 池 暁	江 刺 猿 ヶ 石 土 地 改 良 区	工務課工務係長
小 野 琢 磨	江 刺 猿 ヶ 石 土 地 改 良 区	総務課賦課徴収係技師
今 野 賢 一 郎	江 刺 猿 ヶ 石 土 地 改 良 区	工務課換地調整係技師
遠 藤 圭 二 郎	照 井 土 地 改 良 区	工務課長兼工事係長兼施設管理係長
中 村 み ゆ き	市 野 々 土 地 改 良 区	事務局長



写真上段左から

藤原直洋氏 高橋邦夫氏 菊池暁氏 小野琢磨氏 遠藤圭二郎氏

写真下段左から

澤田聖子氏 千葉智明氏 外館孝氏 小田島会長 千葉秋雄氏 中村みゆき氏

写真右上枠 今野賢一郎氏

ため池の安全対策について

ー 農林水産省HPから ー

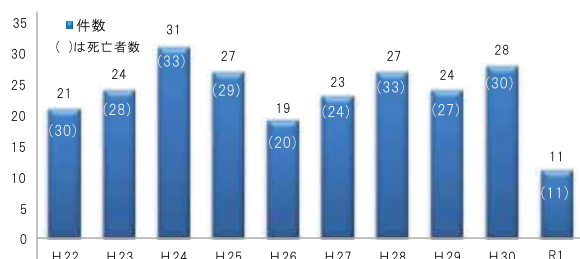


ため池の死亡事故発生件数は、7月にピークを迎える傾向があります。安全対策を十分に図り、事故を防ぎましょう。

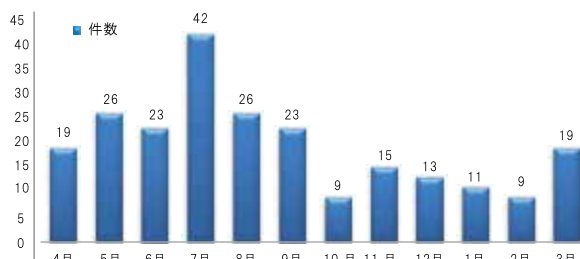
ため池における事故発生状況

- ・ため池の周囲には、都市化や混住化が進んでいるところも多く、事故の発生件数は、増加傾向にあります。
- ・また、事故者の年齢は、20歳未満の幼児・児童などの若年層及び60歳以上の高齢者が多くなっています。
- ・事故は、4月から9月にかけて、釣りや水遊びなどの娯楽中に多く発生しており、次いで自動車運転中の転落事故が多くなっています。

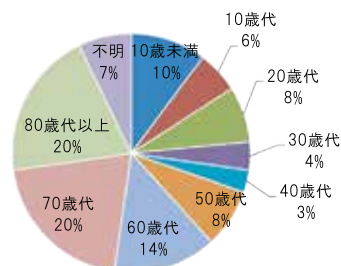
年度別の死亡事故発生件数



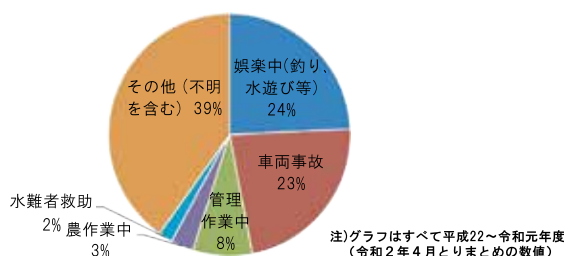
月別の死亡事故発生件数



死亡事故者の年代別割合



死亡事故の経緯別割合



事故の傾向	考えられる背景
☐ 春期～夏期に多く発生	・農繁期による施設操作 ・娯楽利用者の増加 ・散策などの増加
☐ 若年層や高齢者の事故が多い	・判断力の欠如 ・危険区域への進入 ・高齢者の不慮の転落
☐ 娯楽中や車両の事故が多い	・判断力の欠如 ・危険区域への進入 ・車両防護柵の不備

事故の傾向から見た安全対策

- ・事故の傾向と考えられる背景から、ハード・ソフトを組み合わせた対策を強化していく必要があります。

対 策 (案)			
分 類	内 容	分 類	内 容
ソフト	・操作者への安全教育 ・広報誌等による啓発活動	ハード	・安全施設、進入防止柵の設置 ・脱出しやすい施設構造 ・進入禁止及び警告看板 ・救命道具の常備

通常有すべき 安全性

- ・日頃から万が一を想定して、管理しているため池が危険な点が無いかどうかを常に確認しておくことが必要です。
- ・下表は自己診断用のチェックリストの例です。このようなチェックリストを用いて客観的に確認することが重要です。

【自己診断項目】

区 分	内 容	確 認
日常的な施設の巡回・点検等	▪ 進入する出入口の施設がなされているか	☐
	▪ 転落防止用安全柵が破損して人が入れるようになっていないか（破損していれば要補修）	☐
	▪ 看板は表示が消えかかっていないか（消えかかっていれば要補修）	☐
	▪ 小さい子供が理解できる表示板の内容となっているか	☐
	▪ 安全柵等を越えて遊ぶ子供や釣り人がいないか	☐
	▪ 高齢者でも管理しやすい状況となっているか	☐
	▪ 夜間外灯の設置の有無と点灯の確認（堤体周囲の道路の交通状況も確認する必要）	☐
構造上からみた危険性	▪ 構造上の問題（深さや垂直な側壁）あるいは水深等から、転落した場合に、子供が脱出できる構造かどうか	☐
立地条件からみた危険性	▪ 通学路、住宅密集地に位置していないか	☐
過去における転落事故の有無	▪ 過去に転落事故が発生していないか	☐
	▪ 周辺の施設で転落事故が発生していないか	☐
安全管理に係る啓発活動の実施	▪ 周辺自治会等との情報交換（安全柵の設置、通水時期の周知等）	☐
	▪ 転落の危険性等の周知（かんがい期に入る前に広報誌等でため池の危険性を周知）	☐

※参考：「土地改良施設安全管理の手引き」（平成 18 年 3 月 全国水土里ネット）

住民等への説明（危険性の認識）



小さい子供が理解できる表示板の設置



農林水産大臣賞を上小田代ぶどう沢地区（奥州市）が受賞 — R2農業農村整備優良地区コンクール（中山間地域等振興部門） —

3月12日、農林水産省は、令和2年度農業農村整備優良地区コンクールの農林水産大臣賞（中山間地域等振興部門）に奥州市の上小田代ぶどう沢地区（農事組合法人 上小田代）を決定した。

このコンクールは、農業農村整備事業の実施を契機に農村振興や地域活性化等の成果を上げている優良地区（団体）を表彰するもので、今年度は、全国から農業振興部門16地区、中山間地域振興部門14地区併せて30地区がエントリーした。

上小田代ぶどう沢地区は、県営中山間地域総合整備事業を契機に、設立した農事組合法人に農地と生産機能を集約し作業時間を77%減少させたことや、自前で開発したトマト加工品の都内飲食店や大手企業などへの販路拡大の取組等が評価され、最高位である農林水産大臣賞を受賞した。

なお、本地区を含めコンクール受賞団体の取組内容については、全国水土里ネットホームページの「イベント関係」で紹介されている。



【上小田代地区】

第62回全国土地改良功労者等表彰及び 全国土地改良事業功績者表彰 — 本県の2土地改良区、4氏が受章 —

第62回全国土地改良功労者等表彰及び全国土地改良事業功績者表彰の受賞者が決定した。

例年、それぞれ全国土地改良事業団体連合会総会若しくは全国土地改良大会で表彰式が行わ

れていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

なお、受賞者は以下のとおり

賞 名 称	受 賞 者
令和2年度全国土地改良事業功績者表彰 農村振興局長表彰	陸前高田土地改良区 前理事長 熊谷 研
令和2年度全国土地改良事業功績者表彰 全土連会長表彰	大迫町土地改良区 前理事長 佐々木 信行
第62回全国土地改良功労者等表彰 団体表彰 全土連会長賞	小本川土地改良区 富沢土地改良区
第62回全国土地改良功労者等表彰 個人表彰 役員	馬淵川沿岸土地改良区 理事長 山下 正勝
第62回全国土地改良功労者等表彰 個人表彰 職員	岩手中部土地改良区 賦課徴収課長 高橋 和宏

— 令和3年度水土里ネットいわて新規採用職員 —



藤井 さくら
(ふじい さくら)

総務管理部
総務課
主事



嶋村 萌花
(しまむら もえか)

総務管理部
水土里情報推進室
技師



東山 真理子
(ひがしやま まりこ)

農村振興部
農村整備第二課
技師



一戸 千史
(いちのへ ちふみ)

換地部
換地課
主事

— 令和2年度水土里ネットいわて資格取得者 —

○1級土木施工管理技士
(1名)



【佐藤 桂祐】

○会計指導員
(2名)



【西村 文一】



【中村 政美】

令和3年度水土里ネットいわて事務局体制図

